

I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 73

Barney Kessel 【バーニー・ケッセル】

～ウエスト・コースト・ジャズを代表する名ジャズ・ギタリスト～



Photo : Barney Kessel "Live in Los Angeles at P.J.'s Club" (Gambit Records)

Profile

1923年10月17日、米国オクラホマ州マスコギー生まれ。父親はハンガリーからの移民で、靴屋を経営。正式に音楽を学んだのは12歳の時の3か月間のギターレッスンの時。地元ダンスバンドとツアーに出るなど、チャーリー・クリスチャンに憧れて10代の頃からキャリアをスタートさせる。16歳の時にオクラホマA&Mバンドやハル・プライス&ザ・ヴァーシニアンズで活動。1940年代初頭にロサンゼルスに移り、1年間チョコ・マルクス・ビッグ・バンドに参加。47年にチャーリー・パーカーとレコーディングをし、フィルハーモニー管弦楽団に参加。1950年代初めには1年間オスカー・ピーターソン・トリオに参加。同トリオ脱退後、コンテンポラリーでソロ・アルバムをレコーディング。また、レイ・ブラウンとシェリー・マンと共にメトロノーム誌とダウンビート誌によって実施された投票でポール・ウィナーに選出され、ザ・ポール・ウィナーズとして一連の作品を録音。レコーディングに参加した55年リリースのジュリー・ロンドンのアルバム「ジュリー・イズ・ハー・ネーム」は100万枚を売り上げる大ヒットを記録。1960年代はコロムビアビクターでセッション・ミュージシャンとして活動。ザ・モンキーズやザ・ビーチ・ボーイズの録音にも参加。その後、スタジオでの仕事を離れ、再びステージとレコーディングに専念。チャーリー・バードとハーブ・エリスと共にグレート・ギターズを結成。1970年代から1980年代にかけても精力的に活動。プライベートでは4度結婚。1992年に脳卒中で倒れてから体調が優れず、2001年には脳腫瘍が発覚し、手術が不可能な状態だった。2004年5月6日、米国カリフォルニア州サンディエゴで息を引き取る。享年80歳。

ヴァーヴ・レコードやコンテンポラリー・レコードで録音した1950年代のアルバムはもちろん、各年代毎に素晴らしいアルバムを残しているので、ぜひ幅広く聴いて欲しい。

バーニーがハリウッド・ランドと共に録音した西海岸ハードバップ作品



エル・ティグレ バーニー・ケッセル

(Solid/Charlie Parker Records : CDSOL-46508)

バーニー・ケッセル (g)、ハリウッド・ランド (ts)、ラリー・バンカー (vib)、ジミー・ロウルズ (p)、レッド・ミッチェル (b)、他

1. バードランドの守り唄 2. 2人でお茶を
3. オール・フォー・ユー 4. 身も心も
5. エル・ティグレ (他、全10曲)

1960年代後半のバーニーの名盤をカップリングしたアルバム



ブルー・アンド・スウィングン バーニー・ケッセル

(MUZAK/Black Lion : MZCB-1408)

バーニー・ケッセル (g)、ケニー・ナッパ (b)、ジョン・マーシャル (ds)、ジミー・ロウルズ (p)、ティ・エドワーズ (ts)、他

- [Disc-1] 1. シャップリン (他、全8曲)
[Disc-2] 1. 晴れた日に永遠が見える (他、全8曲)

バーニーが追悼企画として日本の地で吹き込んだアルバム



シャイニー・ストッキングス バーニー・ケッセル

(Solid/All Art Promotion : CDSOL-6273)

バーニー・ケッセル (g)、稲葉国光 (b)、小原哲次郎 (ds)

1. シャイニー・ストッキングス 2. カーニバルの朝 (黒いオルフェ) 3. マイ・シークレット・ラヴ 4. トリステ (他、全6曲)

バーニーがクリフォード・ブラウン＝マックス・ローチ・クインテットに加入前のハリウッド・ランドと共に録音し、チャーリー・パーカー・レコードから発表したアルバム。「バードランドの守り唄」からタイトル曲の「エル・ティグレ」～「パーディ」まで、スタンダードを中心にバーニーのギターとハリウッド・ランドのテナーが炸裂する西海岸ハードバップ作品！ジャケットは刺激的でジャズっぽくはないが、内容は熱い。1957年録音。

バーニーが1968年にロンドン、1969年にハリウッドで録音した『ブルー・ソウル』、1968年ロンドンで録音した『スウィングー・イージー！』の2枚のアルバムをカップリングした作品。レア・グルーヴ感満載の『ブルー・ソウル』は世界初CDとなり、ティ・エドワーズ等、8名が参加。『スウィングー・イージー！』は『ブルー・ソウル』にも参加のケニー・ナッパ (b)、ジョン・マーシャル (ds) とのトリオ・アルバム。

日本のジャズ界を盛り上げて来た偉大なる功労者で名ジャズ・プロモーター、故石塚孝夫氏 (オールアート・プロモーション代表) の追悼企画としてリリースされた作品。1977年2月22日東京パイオニア・スタジオにて、稲葉国光 (b)、小原哲次郎 (ds) という日本が誇るリズム陣と共に録音。タイトル曲の「シャイニー・ストッキングス」や「カーニバルの朝 (黒いオルフェ)」等、選曲も興味深く、稲葉国光、小原哲次郎のプレイも必聴。

永遠のギター少年

モダン・ジャズ・ギターの開祖と称されたチャーリー・クリスチャンに憧れて、10代の頃からキャリアをスタートさせたバーニー。10代の頃に参加したバンドのメンバーは、バーニーが1日最大16時間に及ぶ練習をしたことなどから、“フルツケキ”というニックネームを付けたと言われていた。1947年から1960年までエスクワイア誌、ダウンビート誌、プレイボーイ誌の投票でNo.1ギタリストに輝き、1961年から1974年までギブソンからバーニーのシグニチャーモデルのギターも発売される。スタジオ、映画、テレビのセッションでも活躍した。

4度の結婚と息子たち

バーニーは50年代から60年代にかけて、ゲイル・ジェンビア・ファーマーと結婚し、2人の息子ダンとデビッドを授かった。その後、2人目の妻ベティ・ジェーン・ベイカーと16年間結婚生活を送った。3人目の妻ジョアンとは10年間結婚生活が続く、4番目の妻フィリスとは12年間結婚生活を送った。バーニーの2人の息子ダンにはレコード・プロデューサー、デビッドはエンジニア、ギタリスト、ソングライターとして活躍し、共にハリウッドでMarian Recordsをマネジメントし、フィル・スペクターやジョン・レノン、ラモーンズ、ブロンディ等とも仕事をした。

Jazz Standards (ジャズ名曲列伝) vol.46

～ Have You Met Miss Jones? [ジョーンズ嬢に会ったかい?] ～

この曲はミュージカル・コメディ「アード・ラザー・ビー・ライト (I'd Rather Be Right)」のために書かれたポピュラーソング。作曲はリチャード・ロジャース、歌詞はロレンツ・ハートが手掛けた。1937年にペギー・ジョーンズとフィル・パーカーによって発表され、1955年の映画「紳士はブルネットと結婚する (Gentlemen Marry Brunettes)」で歌われヒットした。その後は数多くのジャズ・アーティストに取り上げられ、名スタンダードとなっていった。

★ この名曲が聴けるお薦めのアルバム

- パット・モラン・カルテット 『バードランドのパット・モラン』
- オスカー・ピーターソン・トリオ 『フリーズ・リクエスト』
- アーマッド・ジャマル 『アーマッド・ジャマル・アット・ザ・トップ』
- ジョー・パス 『バーチュオーゾ』
- ジョー・パス&ニールス・ヘニング・オルステッド・ペデルセン 『チョパス』